

## 映画「見えないから見えたもの — 拝啓竹内昌彦先生 —」感想

備前市立伊里中学校3年生

- この映画を見て改めて体の不自由な人の事を理解しないといけないなと思いました。もし、自分の目の前にそんな人がいたら、少しでも力になれることを考え、助けてあげたいです。そのためにはイジメている人にも立ち向かえるくらいの強い心が必要だと思いました。
- この映画を見て、世の中の目以外にも不自由な人は大勢いるので、その人達の気持ちになって行動していきたいと思いました。僕たちにできることは映画でも言っていたとおり、点字ブロックの上に物を置いたりしないことなどなので、これから気をつけていきたいです。そして僕らが不自由な人のために協力することも重要だと思いました。この映画は自殺やいじめなどについても考えさせられる映画で、命をより大切にしていきたいと思いました。映画を見て考え方が変わったので、いろんな人に見てもらって、日本を不自由な人にも住みやすいところになりたいです。
- 目が見えない人はとても大変なんだなと改めてわかりました。普段何も意識せずに点字ブロックの上を歩いていましたが、今日の映画鑑賞で、視覚障害者の人たちにとって点字ブロックは命を守るための大切な物だとわかりました。だから点字ブロックの上はできるだけ歩かず、自転車などは置かないようにしていく必要があると思います。障害があるだけでいじめるということは絶対にいけないと思います。いじめが無くなって欲しいと思います。
- 障害を乗り越えていく姿、見えないからこそ見えたもの。私には考えられないことの繰り返しで、私が今大変だと思っていることが小さく感じました。様々な障害を持っている人たちを私たちが助けていかなければならないと思いました。小さな事からでも助けられると思うので行動に移していきたいと思います。
- 「見えないから見えたもの」を見て、私は周りの人の力とはすごいなと思いました。家族や周りの人の支えが無ければ病気の辛さや、いじめっ子達から逃げられていなかったと思います。竹内さんは本当に良い人たちと出会えたのだと思います。
- この映画に引き込まれ「目が見えない」ということの辛さや悲しさを感じることはできました。今まで「何かできることはないか」「何か助けてあげられることはないか」と思ったことはありました。でも、何一つ行動を起こせておらず、言葉で言うだけではダメだなと思いました。だから今自分にできることを精一杯していきたいです。そして、その人の気持ちをわかってあげられる人になりたいと思います。
- 目が見えないからといって全てのことに消極的になるのではなく、目が見えないからこそ様々なことに挑戦する姿を見て、本当にすごいなと思いました。何でもすぐに諦めてしまうことが私にはあります。竹内昌彦先生みたいに何事にも挑戦し、失敗を恐れられないような人になれるよう変わっていきたいです。そして、竹内先生のように人生を前向きに考え、生きていることをありがたく思い、生活していきたいと思います。この映画を見られて良かったです。

- 映画を鑑賞して、私は普通の（健常な）人として生きていくことができなくても、今ある自分を堂々と生きている姿を見て、とても感動しました。子供の時に皆と違うからというので、イジメを受けていたのを見て、何で差別なんかがあるんだろうと思いました。それでも頑張ってイジメに耐えて、最後には学校のクラス皆が味方になっていて、すごく感動しました。周りとは違うから、自分より弱いから、そんな理由で差別をするのは良くないことです。私はあの映画を見て、もっと周りに気を配ったり、気をつけようと思いました。
- 諦めないで頑張っていたら、いつかは花開くときが来るんだなぁと改めて感じました。人を大事にする。思いやりの気持ちを忘れないっていうことが本当に大事だと思いました。
- 映画を見て「一日一日を一生懸命生きる」や「尊い命を大事にする」という言葉が印象に残った。先生が変わってからイジメが無くなった時の先生や生徒の行動に感動した。
- 体のことについて友達をからかうのは絶対にしてはいけないと思った。目が見えない人へのイジメや差別をなくすためには、他の人がその人のことを理解し、認めることが大切だと思った。
- 目が見えない人用の点字ブロックの上で立ち止まって話さないようにし、話している人には注意する。また、目の見えない人のつらさは目が見えなくなるとわからないかもしれないけど、そのつらさがわかる人になる。それから、竹内さんがいじめられた時に、クラスの皆で助け合っていた。そんなクラスになりたいと思う。